

33
まいん



採鉱



運搬



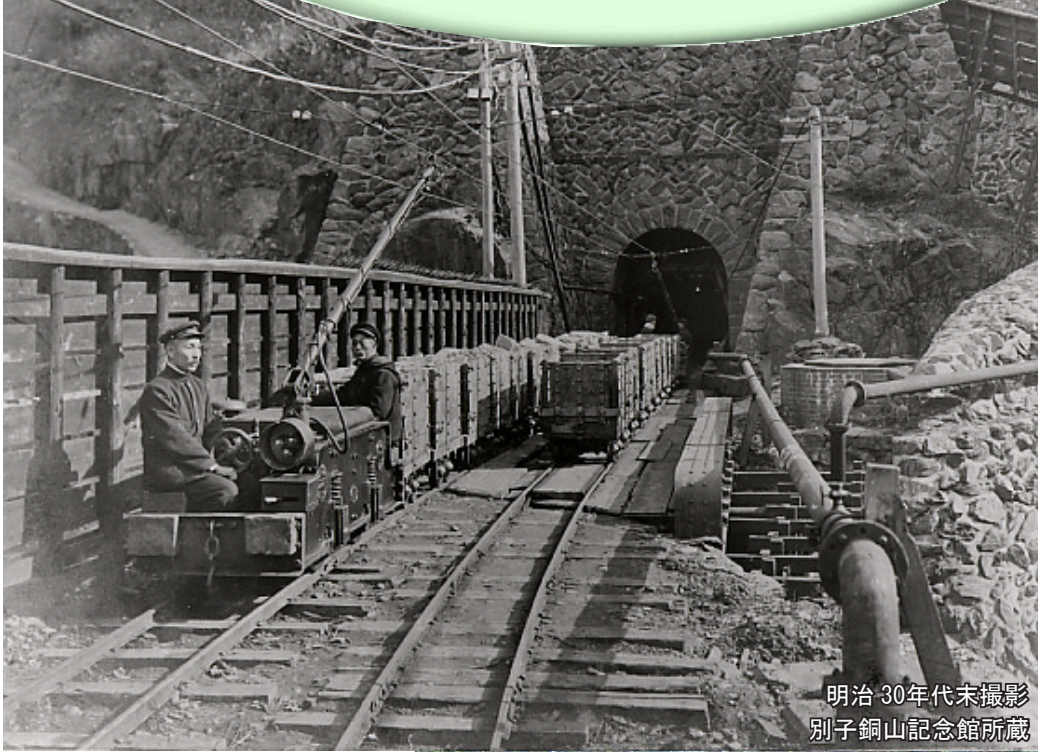
生活
文化



伊庭貞剛

だいさんつうどう

第三通洞



明治 30年代末撮影
別子銅山記念館所蔵

いくた
幾多の物語を運び
つむ
紡いだろう
第三の通洞
みち

だいさんつうどう 第三通洞

は、別子銅山二代目支配人伊庭貞剛により、明治27年(1894)3月から建設作業を始め、明治35年に貫通しました。

東平坑口(海拔約747メートル)から8番坑道準の東延斜坑底まで、延長約1,820メートルでした。

また、坑道幅は3.35メートル、高さ3.73メートルでした。



現在の第三通洞

通洞の中間地点にあり、坑内の採鉱本部の役割を果たしていた



昭和30年代後半の8番役局

さらに、第三通洞東延斜坑底付近から別子山村南方日浦谷に通じる日浦通洞が明治41年から建設が始められ、明治44年に貫通しました。

日浦通洞は延長2,120メートルで、東平～日浦間が約4,000メートルで結ばれました。通洞内には、端出場水力発電所への導水路も設置され、日浦から東平へ水が運ばれました。

昭和13年(1938)には、かご電車の運転が開始され、新居浜側と別子山側を結ぶ唯一の交通機関として、一般の人が利用していました。

現在は、両側がせりだした独特な石積の奥に、第三通洞口跡を見ることができます。

